

きずな

KIZUNA

12 2022年
令和4年

特集

障害のある人

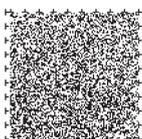
誰もが参加できる社会

12月3日～9日は
障害者週間です。



INDEX

- 2 「同じ時代に生きるものとしてできること」
田淵 伸司さん
(北京パラリンピック2022スノーボード日本代表)
- 3 「「助けてあげる」ではなく「助け合える」社会に」
藤木 和子さん
(弁護士・全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会 副会長)
- 4 「介助が必要な方でも暮らしやすい地域を
～ユニバーサルツーリズムの観点から」
衣川 勝海さん (NPO法人ぐるじえくとPlus 代表理事)
- 5 「「大人の発達障害」と職場での配慮ポイント」
三橋 利晴さん (岡山大学病院 助教)
- 6 「笑顔で共生の社会を広げよう！」
中村 美智留さん (メイクユースマイル神戸代表)
- 7 「だれかの日常」
北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール2021 高校生部門優秀賞受賞作品
宮脇 ひなたさん (県立姫路南高等学校)
- 8 情報ふらざ



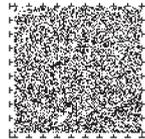
12月号には、音声コードを印刷しています。
専用の読み上げアプリまたは装置で読み取ると、
「きずな」の内容を音声で聞くことができます。



兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
兵庫県マスコット はばタン

障害のある人が車いすでの乗車拒否されたり、アパートの入居を断られる事象が発生しています。障害のある人を含む全ての人々にとって住みよい平等な社会づくりを進めていくためには、社会の全ての人々が障害のある人について十分に理解し、必要な配慮をしていくことが求められています。

本号では、障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現について考えてみましょう。



特集 障害のある人

同じ時代に生きるものとして できること

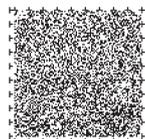
北京パラリンピック2022
スノーボード日本代表

田淵 伸司 さん



プロフィール

兵庫県立学校の教諭(数学科)。26歳の時にスノーボードの練習中の事故により障害が残る。以降、障害者と関わるが増えたこともあり、16年間高校勤務から特別支援学校へ転勤し、障害がある子供たちの教育や支援に携わる。同時にパラスノーボード日本代表として活動し、今年3月に行われた北京パラリンピック2022に出場した。



A Q

パラリンピック出場で感じられたこと
ここに至るまで、さまざまな苦労と
たくさんの方の支えがありました。
その中でも、パラリンピックは、ワ
ールドカップや世界選手権より多くの
方々の支えの中で開催された大会
だったと思います。そのような夢の
舞台に立たせていただいたというう
で感謝でした。

A Q

スノーボードを始めたきっかけは
かっこいいスポーツで、モテるかな
と思い始めましたが、気づけば自分
がスノーボードに魅了され、生活の
一部になっていました。健常者と競
技する中で、ふと自分は障害者の中
でどれぐらいの実力だろうと思ひ、
パラスノーボードと関わることとな
りました。きっかけはともかく、始め
るといふことの大切さを今になって
よく感じています。

A Q

今後の抱負
この経験を教育現場に生かし、ス
ポーツと人権教育に力を入れていき
たいです。マイノリティー(少数派)
を取り残すことのない共生社会の実
現に向けて、健常者と障害者、通常の
学級と特別支援学校、数学科とアス
リートとして伝えていくべきことは
山ほどあります。社会的弱者と言わ
れる障害者の運動が「福祉」から「ス

A Q

子どもたちへ伝えたいこと
2つに絞ると「①きっかけはなんで
もいからやってみよう」と「②情報
機器とうまく付き合おう」です。
1つ目についてはスノーボードの
きっかけは前記しましたが、始める
きっかけなんてなんでもいい。むし
ろ心があつた方が、楽しく何事に
も向き合えると思います。
2つ目については代表チームでもS
NSやYouTubeから情報を集
め、情報を共有したり、検索したりし
ています。新しいことを始めるため
には最強のツールです。SNS等を
上手に活用し、情報収集や情報発信
を心掛けてほしいと思います。

A Q

県民の皆様へメッセージ
障害者になって、障害がある方やサ
ポートしていただけるたくさんの方
と出会うことができました。その中
で感じたのは、人は障害の有無に関
係なく、個性や育ってきた環境に
よって考え方が違うということだ
です。多数派の社会における少数派の
息苦しさを理解していただける方も
まだまだ少ないと感じる場面があり
ます。それを改善していくためには、
障害者自身や支えている皆さまの情
報発信が不可欠だと思います。同じ時
代に生まれてきたものとして、障害
の有無に関係なく、お互いが支え支
えられて生きて
いける「共生社会
の実現」に向けて
皆さんで頑張っ
ていきましょう。



「助けてあげる」ではなく「助け合える」社会に

弁護士・全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会

副会長

藤木 和子 さん

◆障害のある弟は「対等な相手」

私は、耳が聞こえない弟と一緒に育ちました。周囲からは、「お姉ちゃんには障害のある弟を助けてあげて」とよく言われていました。しかし、私の中では、弟は本気でテレビゲームや取っ組み合いのケンカをする「対等な相手」でした。子どもの遊びの世界ではありませんが、テレビゲームは視覚で楽しめます。セリフが文字で出るものもあり、耳が聞こえる・聞こえないを考えずに遊べました。だからこそ、ケンカもできたと思います。

◆障害者差別解消法がめざしているもの

障害者差別解消法がめざしているのは「障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会」(第一条)です。私の「聞こえる姉」と「聞こえない弟」ではなく、「一人の人間」として見てほしかった、という思いに通じます。法律が定めている障害のある人への「合理的配慮」とは、例えば、何かを伝える際には、耳が聞こえない人には文字、手話、イラストで伝える、目が見えない人には音声や点字で伝える等です。それが「平等(公平)」ですよ。

◆役割を免除するのは「親切」?

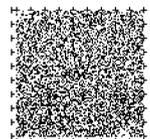
ね。親切や思いやり頼みではなく、法律で「負担が重すぎない範囲で合理的配慮をする」とルール化したことが重要です。具体的に何が必要かを相手に尋ねて、できることをするようにしてほしいと思います。互いの事情を理解して一緒に考えていく建設的対話が大事です。自治体等の相談先もあります。

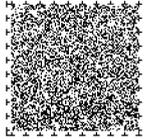


プロフィール

1982年生まれ。弁護士。手話通訳士。聴覚障害のある弟と育った「きょうだい」、「ヤングケアラー」として活動・発信。シブコト障害者のきょうだいのためのサイト共同運営者。聞こえないきょうだいをもつSODAソーダの会代表。著書『「障害」のある人の「きょうだい」としての私』(岩波ブックレット)。

しょうか? 私は違うと思います。法律が「共生社会の実現」をめざしていることから考えると、「助け合っていくためには、どのような合理的配慮や工夫が必要か」という方向が適切です。「何が平等(公平)か」は状況によっては正解のない難しい問題ですが、障害の有無に関わらず誰もが必要な時に助けが得られ、社会全体で助け合っていけるように私も微力ながら頑張っています。





介助が必要な方でも
暮らしやすい地域を
ユニバーサルツーリズムの
観点から

NPO法人ぶろじえくとPLUS

衣川 勝海 さん
代表理事



プロフィール

福祉系の大学を卒業後、知的障がい児者施設等で約10年勤務した後に、障害者就業・生活支援センターなど障がい者の就労支援に携わる。就労を継続するうえではストレス管理はとても大切と感じ、趣味を持つなど余暇の充実が重要と考える。共通の趣味を持つ障がい者の在職者交流会なども企画している。

豊岡市、朝来市、養父市、新温泉町に拠点を置かれ、障がい者の相談支援事業、就労移行・就労継続支援事業、就労定着支援事業、生活介護事業、ひきこもり居場所事業などの運営そしてユニバーサルツーリズムに取組まれている衣川さんにお話を伺いました。

Q ユニバーサルツーリズムとは

A ユニバーサルツーリズムとは障がい者や高齢者など、移動などが困難な人々のニーズに応えながら、誰もが旅を楽しめることを目指す取り組みです。私たちは城崎温泉の旅館での就労継続支援活動の中で、ユニバーサルツーリズムと出会いました。これまで身体障がい者の方を対象にモニターツアーを実施し、また障がい者の方とともに実際に街歩きをし、城崎温泉ユニバーサルマップを作成しました。さらに、アクティビティの体験の実施、ヒッポキャンプ(水陸両用の車いす)を使用し、海での浮遊体験や高原を散策するなど普通の車いすで行けないフィールドを楽しんでもらい、その様子を動画配信して多くの人に伝えていきます。

エレベーターやスロープがある、その先のバリアをマンパワーなどソフト面で超えていき、誰もが楽しめる環境を作っていきたいと考えています。



Q これからの活動について

A ヒッポキャンプの普及、障がい者や高齢者のことを理解し「ヒッポキャンプを扱えるインストラクター」の育成、但馬地域の自然体験モデルコース整備、ツアー商品の造成などを進め、介助が必要な方の旅行や自然体験が特別なものではなく、身近なものとなるように地域の資源の開発や連携、コーディネート機能の充実を図っていきたいと考えています。

Q 県民の皆様へメッセージ

A 障がい者と聞くと自分とは違う世界の方というイメージが強いと思いますが、高齢になれば障がい者と同じ問題を抱える可能性が高くなります。介助が必要になると旅行なんてとあきらめるようになり、介助者も負担を考えると旅行は無理と考えがちになります。ユニバーサルツーリズムは当事者や介助者に旅行を楽しんでいただくことで、それに携わるスタッフも楽しい気分になります。ユニバーサルツーリズムを促進することで地域も住みやすく、資源を知る・開発する・連携することで災害にも強い地域になると思いいます。障がい者が暮らしやすい地域は誰にとっても暮らしやすい地域へとつながります。



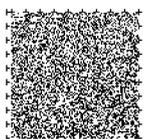
当事者に聞く
自立生活という
暮らしのかたち

この本は、自立生活をされる重度障害の当事者に、作業療法士の河本さんが取材され、「作業療法ジャーナル」の連載を加筆修正されており、重度障害のある方の自立生活について考えることができます。

また、介助する方など自立生活をされる方の暮らしを支える方々への取材もされており、本書を読み終えた後は、帯にある「それは、可能なのだ。」を理解することができるようになる作品です。



著者 河本のぞみ
発行 三輪書店



「大人の発達障害」と 職場での配慮ポイント

岡山大学病院

助教

三橋

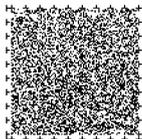
利晴

さん

「大人の発達障害」が ある方の就業

発達障害は精神疾患や家庭環境ではなく、脳の「機能の偏り」を原因として、学習、言語、行動などに不全を抱えた状態のこととされています。子供の時期に明らかになる場合を指していましたが、最近では大人になってから初めて「発達障害」と診断される方も注目されるようになりました。

発達障害と診断された方は、その他の障害がある方よりも職場に定着されている方が多く、職場で発達障害の方と一緒に働く機会も増えてきています。



職場で配慮したいポイント

発達障害には色々な特性がありますので、その特性を踏まえた配慮を検討することが重要です。配慮を検討する場合、本人から障害のために苦手としていることを聞き取り、職場で対応可能なこととすり合わせていくことが必要です。

発達障害の特性の一つとして、自分のやり方へのこだわりがあります。仕事においても、職場のマニュアルや手順書とは異なった自己流の方法で行ってしまいがちです。そのような場合、本人は職場内の雰囲気を読み取ることが難しく、行動を改める機会がなくなってしまう可能性があります。改善のためには、「こうしてほしい」と本人が理解でき



プロフィール

1979年岡山県玉野市生まれ。岡山大学大学院医歯学総合研究科にて博士課程修了。初期臨床研修医や非常勤研究員を経て、現在は岡山大学病院新医療研究開発センターに所属。学内外の臨床研究支援を行いながら、産業衛生・疫学・予防医学の実務や研究を行う。平行して2008年からは嘱託産業医として様々な業種の事業所を担当している。



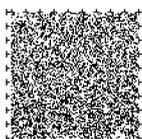
大人の発達障害の特性を 踏まえて、誰もが働きやすい 環境整備を

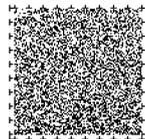
きるように具体的に声をかける必要があります。職場が慌ただしくなる時期には、感覚過敏などの特性がある方は周囲を過剰に気にして、集中力が続かなくなる場合があります。そのような場合、状況の見通しが分かると安心に繋がります。図などを活用して、目に見える形で提示すると良いでしょう。

色々な人が働きやすい職場にするためには、個人個人の特性を相互に理解し、それに対する適切な配慮が必要です。そのためには、本人・関係者を

交えた話し合いや丁寧な情報共有を行いながら、検討していくことが重要です。そうはいつても、職場でできることには限界があります。そのような場合は、職場内外の専門家を活用し、アドバイスを受けて下さい。

発達障害というとネガティブなイメージにも聞こえますが、職場環境の整備がうまくできれば、その特性の強みを活かした仕事を行うことができます。





笑顔で共生の 社会を広げよう！

メイクユースマイル神戸 代表

中村 美智留 さん



プロフィール

2015年M.Y.S.Kobe(メイクユースマイル神戸)の活動を始める。以降「ユニバーサルファッションショー」をはじめ、さまざまな笑顔企画を実施。2022年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」受賞
『全盲の祖父母が地域の中で普通に4人の子育てと仕事を続けていた記憶』が私の活動の大きな支えとなっている。

ひょうごユニバーサル社会づくり賞を受賞されましたメイクユースマイル神戸代表の中村さんにお話を伺いました。

Q 活動をされたきっかけは

A 選挙のボランティアに参加した際、私を含めて子どもたちのそばで「生き方」を伝える母親や女性たちが、社会全体の在り方にあまり問題意識を持っていない事が、子どもたちを取り巻く課題に大きな影響があるかもしれないと考え、「誰かを笑顔にすることでも自分も笑顔になる」という社会的市民活動「メイクユースマイル神戸」を始めました。

Q 活動内容

A 「誰かの笑顔のために」関わったみんなが笑顔になる」をモットーに、神戸市内を中心にさまざまなイベントを行っています。
高齢者施設での絵本の読み聞かせ、神

Q 今後の活動について

A 今後もユニバーサルファッションショーを実施します。これらを通じて地域の方々と交流を広げていきます。この活動では、「障がいがあっても主人公になってみんなの笑顔を作ることが出来る社会活動」として、各地に広げていきたいと思っています。
また2022年11月から月1回「こども居場所活動」を始めます。ここでは地域の子どもたちと、障がいがあってもなくても誰でも笑顔で集える楽

しい居場所づくりを続けていきたいと思っています。

Q 県民の皆様へメッセージ

A メイクユースマイル神戸は障がい者支援団体ではありません。私たちのユニバーサルファッションショーモデルは、みんなを笑顔にしてくれる大事な仲間であり同志です。創る側も観る人もみんなを笑顔にするパワーを持っているモデルたちと、いろんな場所に出かけて行ってその地域の人たちと共生の社会づくりの輪を広げ、それを子どもたちに伝えていきたいと、わくわくした想いで活動をしています。
どうぞみなさんも私たちの「ユニバーサルファッションショー」を観に来てください。そこに溢れるみんなの笑顔に、きっとあなたも新たな気づきがあることでしょう。

映画紹介

『ケイコ 目を澄ませて』



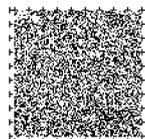
ケイコは生まれつき耳が聞こえず、体格にも恵まれていませんが、地道な練習を続けてプロボクサーになりました。しかし二回戦目の勝利のあと、ボクシングを続けることに迷いが生じます。次の試合を控えながら練習に身の入らない彼女に、ジムの会長は「闘う意思がなければ対戦相手に失礼だ」と言います。

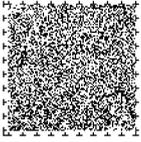
16ミリフィルムで撮られたどこか懐かしい情景。しゃべらないどころか、ほとんど感情を表に出さない主人公の心の動きをつかもうと映像に目を凝らすうち、見えるけれども見ず、聞こえるけれども聞かず、うわの空で過ごしている普段の自分に気づきます。

近所の河原で偶然出会い、挨拶してくれた対戦相手。作業着姿で仕事からしい。その出会いに促されるように、ケイコは再び走り出します。人生はドラマと違い、勝って終わることも、負けて終わることもない。「目を澄ませて」見れば、障害があろうとなかろうと、人はそれぞれの生を戦い続けているのです。

© 2022映画『ケイコ 目を澄ませて』製作委員会 / COMMES DES CINÉMAS

■監督:三宅 唱 ■2022年/日本/99分/G
■制作:『ケイコ 目を澄ませて』制作委員会
■配給:ハピネットファントム・スタジオ





北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール 2021

高校生部門 優秀賞受賞作品

だれかの日常

兵庫県立姫路南高等学校 宮脇 ひなた さん

北朝鮮による日本人拉致問題を今までたびたび耳にしたことがあった。愛する家族が日常生活のなかで突然姿を消し、生きているのかどうかもわからない悲しみ、苦しみははかり知れないと思われる。今日見た映像に出ていた横田めぐみさんは拉致されたとされる当時、私と同年代であった。拉致されそうになったとき、即座に状況判断などできるはずがない。もし私がめぐみさんの立場だったら、なにができただろうか。少しでも抵抗ができただろうか。逃げようにも足がすくんで動けない、声をあげようにも上手く出せない。きっとそうになってしまうと思う。想像するだけでとてもおそろしい。

横田めぐみさんが拉致された事件について調べてみた。当時、めぐみさんは中学生であった。そこが私には少し疑問に思えた。日本語を教えさせたいのであれば教師をしている人物を狙わなかったのはなぜだろうと。その理由について推測された記事を見つけた。そこには「小さいうちから連れて行ったほうが洗脳しやすいと考えた可能性がある。その中で、何らかの北朝鮮の工作網にかかったのがめぐみさんだったことはあり得るのではないか。」と書かれていた。もしこの推測が正しかったとすると、人をただの道具としている考えがすごく腹だたい。ふざけるなども思う。小さな幸せであふれていた、一人の少女の人生を一体なんだと思っているのだろうか。他に拉致されてしまった人たちもだ。日本語を学びたいなら、学ばせたいなら、もっと他に方法はいくらでもあるのに。だれかの日常を奪う権利なんて誰にもないはずなのに。

もし家族や友達など自分が知っている人がどこかの国の人に拉致されたりしたら、きっと私は犯人だけでなく、その国自体を嫌い、憎んでしまうだろう。でもめぐみさんの母親である横田早紀江さんはそうではなかった。「めぐみ」の中で次のようなセリフがある。「私たちは北朝鮮に住む一般市民の人たちを憎んだり恨んだりしている訳ではありません。ただ親として今も北朝鮮に囚われの身となっている娘を助け出したいだけなのです。」

すごく考えさせられるセリフだった。心の底から、めぐみさんを愛しているのだ。愛しているからこそ、ただこの思いで一心なのだろう。

拉致をした犯人も、しなければ自分の命や家族の命が危なかったのかもしれない。しかし先ほど書いたようにだれかの日常を奪う権利はだれにもない。拉致は決して許されることではない。

拉致された人たちが一日でも早く帰国し、大切な人に再会できることを心の底から願っている。



兵庫県拉致問題啓発ビデオ

「私たちにできること～拉致問題の解決を願って～」



きずな4月号にて掲載しました啓発ビデオの視聴方法をご紹介します。



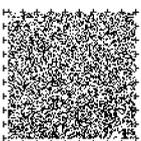
YouTubeで

兵庫県人権啓発協会 検索

「YouTube 兵庫県人権啓発協会公式動画チャンネル」にて配信中！
人権研修会や学校の授業等でも是非ご活用ください。

※「ひょうごチャンネル」
(<https://hyogo-ch.jp>) から視聴できます。
※市町、学校等への貸出用DVDもあります。
上映時間は約42分です。

■お問合せ先：兵庫県県民生活部総務課（人権推進班）TEL078-362-3228





「誰か」のことじゃない

12月4日～10日は

人権週間です!

みんなで人権を考えよう

1948年(昭和23年)12月10日の第3回国際連合総会において、「世界人権宣言」が採択されました。我が国では、翌年の1949年(昭和24年)から、「世界人権宣言」が採択された12月10日(人権デー)を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、この週間を中心に、全国的に人権啓発活動を展開し、人権尊重思想の普及高揚を呼びかけています。この機会に、人権について改めて考えてみませんか?

■法務省人権擁護局HP <https://www.moj.go.jp/JINKEN/>

■当協会人権週間HP <https://www.hyogo-jinken.or.jp/info/banner>



のじぎく文芸賞の入賞者が決定



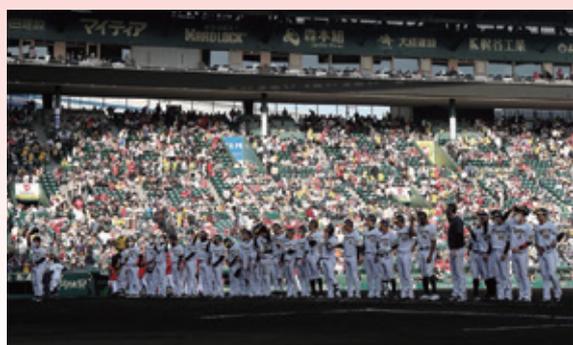
令和4年度ののじぎく文芸賞には、1,415点(一般の部119点、学齢児童生徒の部1,296点)の応募がありました。審査の結果、下記の通り入賞者が決定しました。12月2日(金)の「人権のつどい」(13:30～兵庫県公館)で表彰式を行います。作品の一部を本誌で紹介するほか、最優秀・優秀作品は当協会のホームページにも掲載します。

賞名	部門	部	作者名(敬称略)	作品名
最優秀賞	小説	/	三年三月	心の種
	随想	/	田中 杏実	心に寄り添うということ
	詩	/	該当者なし	
	創作童話	/	パク ヘレナ	ふれる
優秀賞	小説	一般	先間 美保子	シマトネリコの木と僕
		学齢	工藤 容子	黒猫かあさんと三匹の仔猫
	随想	一般	細川 佳織	心のバリアフリー
		学齢	笠原 世莉奈	物忘れ
	詩	一般	ひの 朱寢	今日も
		学齢	近藤 葵	キャンパス
	創作童話	一般	松末 真理子	よい子の似顔絵
		学齢	船引 里音	ぼくはロボット

*学齢 = 学齢児童生徒(中学生以下)

わたしたちも

“人権文化をすすめる県民運動”を応援しています!



© 阪神タイガース



県警からのお知らせ

兵庫県警察では、北朝鮮による「拉致被害者」^{ありもとけいこ}の有本恵子さんと田中美さん^{たなかみのる}に関する情報や、「拉致の可能性を排除できない行方不明者」の方々に関する情報提供を求めています。

お心当たりのある方は、兵庫県警察本部外事課まで情報をお寄せください。

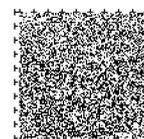
皆様のご協力をお願いします。

詳しくは、兵庫県警察ホームページをご覧ください。

- 兵庫県警察本部外事課
代表電話 078(341)7441
詳しくは、

兵庫県警察拉致問題

検索



「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

兵庫県人権啓発協会

検索



(公財)兵庫県人権啓発協会
〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360
✉ info@hyogo-jinken.or.jp